

教育環境	10	環境になっている。	A	ハズレの状況ではない。
	11	施設・設備を整え、幼児の様々な活動がおこなえるようにしている。	A	絶えず子どもの目線で見直すように努力する。
	12	施設・設備の安全を確保する努力をしている。	A	園児たちの安全確保は最優先課題である。
	13	施設・設備の改善や計画について積極的に意見を述べている。	A	施設、設備のうち、直接園児に係る環境整備には直接指導に当たる教員からの助言が絶対に必要なので、意見を聴いてから改善策を立てている。不備な点に気付いた時は、すぐ園長に伝えている。
教育内容	14	神の子として世界の平和を大切にすることを育てている。	A	毎日の祈りの中で、福祉活動への参加を通して培われている平和を願う心が、大人になっても持続できるように努力する。
	15	生活や遊びの中で、頑張ったり、我慢したり等の豊かな心の体験が得られるようにしている。	A	こども達は、幼稚園で沢山我慢し譲りあい許し合い助け合うことを身につけている。
	16	生活や遊びの中でルールを守り、楽しく活動できるようにしている。	A	こども達は自分達でルールを作り、楽しく活動する力を持っているので、時にはけんかもあるが、賢明な判断を習得することが大切。
	17	身近な事象（自然的事象・社会的事象）や動植物との触れ合い、親しむとともに、生命の大切さや畏敬の念を感じとれるように努めている。	A	自然界の生命体への関心は際立っている。この傾向が全ての生命への畏敬の念にまで育つような教育内容の構築が求められる。
教師の役割	18	幼児一人ひとりの心のより所としての役割を果たしている。	A	一人ひとりへの心配りに重点をおくようにたえず連携プレイで取り組んでいる。
	19	保護者に信頼されるように努めている。	A	誠心誠意行っているが、考え方の違いや言葉による誤解が生じないように賢明に単独で対応しない。
	20	教師であることに誇りを持ち、生きがいを感じている。	A	謙虚さを失うことなくモンテッソリ教育の精神に徹し、あくまでも「助け手・援助者」に徹する。
資質の向上	21	キリストの教えを学びそれを幼児に伝える指導法を研究している。	A	カテケージスの方法を習得し、園児に還元できるように、その機会を設けるように工夫したい。
	22	教師の専門性を高めるため自己研修等に意欲的に取り組んでいる。	B	管理監督者からみれば、教師一人一人良く努力していると言える。
	23	保護者の子育てへの不安、育児へのニーズを理解しようと努めている。	A	担任、園長、副園長、共働者（子育て経験者）による対応を継続していく。
地域連携	24	カトリック教会との連携を計りキリスト教文化や伝統に触れる機会を大切にしている	B	小教区からの要請があれば可能な限り応える用意はあるが、お互いにあまり干渉しない方が良い結果をもたらすと考えられる。
	25	家庭や地域との連携を十分に図りながら保育を展開するようにしている。	B	遠隔地からの通園者にも対応出来るような方法（電話等）をよく活用する。
地域連携	26	地域に伝えられている文化や伝統に触れる機会を大切にしている。	B	近隣の幼稚園と一緒に行事に参加することは、現実的に不可能である。 (遠隔地通園者等の都合により) しかし各家庭では機会を良く生かしている。
	27	他の教育機関等と連携や交流をし保育にいかしている。	B	特に小学校からの問い合わせに対応している。

組織運営	28	園・学園の組織について知り、自分もその組織の一員としての自覚をもって行動している。	A	(ここでは学園全体の事については対象にしている)
	29	職員会議等の運営・役割に応じて積極的に参加している。	A	少人数なので、全員の協力・出席は当然のことである。
	30	教職員間の連絡・調整が適切におこなわれている。	A	小規模園なので、メモや口頭で連絡・調整している。
保護者との意見反映	31	保護者からの意見を聞き、それを園長に伝え、適切に反映している。	A	必要に応じてメモ及び直接に電話等で確認している。
	32	幼児や保護者の個人情報の取り扱いについて、適切な配慮がされている。	A	非常に厳格に行われている。
	33	事故、問題等が起きた場合の園長への報告・保護者への説明、対応を適切におこなっている。	A	この点は特に厳しく行っている。

5 総合的な評価結果

総合評価	理由
A	いわゆる教育学的研究や、研修会への参加には消極的かもしれない。